

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4592200028		
法人名	社会福祉法人 高千穂天寿会		
事業所名	グループホーム 寿久の里		
所在地	西臼杵郡日之影町大字七折1850-1		
自己評価作成日	平成24年1月14日	評価結果市町村受理日	平成25年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成25年2月5日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

開設2年目で、手探り状態ではあるが、職員がいつも明るく元気で、笑顔の絶えないグループホームである。また、入居者と一緒に来る事は、一緒に楽しんで行っている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

社会福祉法人高千穂天寿会を中核に、3か所の特別養護老人ホームと養護老人ホームが運営され、関連事業として23年4月にグループホームが開設されている。管理者や職員は、介護経験豊かな人が多く、チームワークも良い。また、運営向上の意識も高く、他のグループホームの視察に出かけたり、業務改善等に積極的な取組が見られる。できることはやっていただく、そして明るく笑って過ごすことが一番であると、職員は同じ思いで日々ケアに取り組んでいる。今年の初め、運営推進会議の場で、利用者によるハンドベルの演奏を披露し、緊張と達成感と喜びを得る場面づくりをしている。また、今年から、毎月カラー刷りの生活状況便りを発信し、家族との信頼関係の構築に努力している。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し、意識づけも行っていると思うが、新人職員が入った事により、更に一人ひとりの意識づけが必要と思う。	法人としての理念があり、その一部として、できることはやっていただく、そして明るく笑って過ごすことが一番であると、職員は同じ思いでいる。調理への参加やレクリエーションで笑いを引き出し、その思いをもって実践している。	他のグループホームの視察に行き、理念の在り方を勉強する機会を得ている。法人としての理念はあるが、全職員が共有できるような、ホーム独自の理念の確立を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	養護老人ホームでの行事の参加と、他特別養護老人ホームへドライブに出掛け、交流を行ったり、ドライブを兼ね、買い物に出掛ける。慰問に来てもらい、一緒にお茶のみを行ったりしている。	隣接する養護老人ホームには、利用者の知り合いが多く、時々出向き、交流をしている。ホームで行われる催事には、家族の参加を促したり、ドライブを兼ねて買い物に出かけ、地域の方々と触れ合うなど努力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	案は出るが、具体策が出らず、地域貢献には至っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でだされた意見や要望は、職員会議で話し合い、取り入れられるものは取り入れている。通信を発行し、委員の方々にも発行している。	ホームの活動や利用者の状況を報告している。報告から意見や提案が出されたり、また、助言もあり、運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日之影町保健センター所長が、運営推進委員であり、また、いつでも電話連絡等が出来る、協力をいただいている。	市担当者とは、日ごろから相談しやすい関係である。担当者は、運営推進会議のメンバーであり、意見やホームの状況把握に努め、積極的に協働関係を築いていこうとする姿勢がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束については認識はしている。危険性の高い時には施錠を行っているが、入居者の希望により、散歩に出たりする時には、職員は見守りにて開放している。	問題行動には理由があると心がけ、利用者の心を把握する努力をしている。現在、帰宅願望の強い利用者が2名おり、見守りを強化し、ドライブしたり、マンツーマンで対応するなどして、利用者の意に沿うようにしている	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会は少ないが、それぞれが得た情報を職員同士で話し合い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会もなく、難しい問題で、理解不足である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、1年間なかった。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが、要望等はほとんど入っていない。面会時に声かけを行い、要望等を聞いている。	来訪時や家族への電話連絡時に、意見や要望を引き出す努力をしている。運営推進会議のメンバーに、介護経験豊かな家族が参加されており、意見や助言を受け、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の全体会にて意見を出してもらっている。また、その都度話し合う場合もある。	全職員が参加する会議の場、また、日ごろから自由に意見や要望は言い合える場になっている。他グループホームの視察の意見の反映や緊急時の対応の研修等の要望もあり、近いうちに実施を計画している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	殆ど法人で統一されているが、労働時間だけは、グループホーム独自である為、それに対する給与は他施設とは異なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修には参加するが、機会は少ない。外部からの講師にて、勉強の機会を設けたいが、実施には至っていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での交流はある。同業者との交流は、研修先で、意見交換を行っている。また、他グループホーム視察を予定している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	困っているような時や不安そうな時は、1対1で話に耳を傾けている。収まらない時には、家族に電話をしたり、ドライブに行ったりし、気分転換を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時に居室に出向いて、一緒に話をしたり、こちらから相談があった場合や家族からの話があった場合は、入居者がいない状態で話をする。信頼関係は出来ていると思う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受け、必要であれば協力機関へつなぐ対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯や調理等を一緒に行う事によって、本人の意見が聞き取れ、関係づくりが築かれている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から家族との信頼関係は図っている。面会時や入電時には、日ごろからの生活や家族の負担等聞き入れ、相談するように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室へ行ったり、買い物に出掛けたり、また、家の近くにドライブに行ったり途切れないように努めている。	なじみの場所へのドライブや外食、買い物に出かけて、懐かしさや喜びを得る支援をしている。昔、培ってきた野菜づくりやしめ縄づくりなどの作業も取り入れ、一人ひとりの暮らし方を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全体の見守りを行い、入居者の間に入り、入居者同士が関わりあえるよう、支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、移動先への情報提供や相談に応じる事は、家族へは伝えてある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	殆どの入居者が帰宅欲求が強く、本人にとってどのようにしたらいいのかは、常に職員同士で話し合っている。	現在、意思疎通困難者はいない。利用者のほとんどがドライブの希望があり、週1回は取り入れている。また、暮れに行ったきねと曰による餅つきが好評で、旧正月にも予定している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の面会時に、小さい事でも情報を聞き出し、職員全体で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護経過記録や伝達ノートで情報をだしている。また、経験の浅い職員が多い為、わからない事やわからないであろうと思ったことは、その都度伝達を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中で、本人にとって何が一番いいのかを常に話し合っている。また、家族からの要望等も聞き入れている。	利用者や家族の意向、要望を取り入れている。また、職員間の連絡ノートを参考にしたり、月1回開く担当者会議での意見を反映した、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を記入し、情報の共有は出来ている。実践が上手く出来ているかはわからないが、出来るようには努力している。見直しにも生かされていると思う。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が遠方であったり、高齢であったりして、入居者について対応できない部分は、ホームが変わって対応するように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行きつけの美容院に行ったり、買い物に出掛けたりし、そこで知り合いに会う事も多く、それぞれ楽しんで生活できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族が遠方にいる時には、職員付き添いで受診しているが、他は家族付き添いで受診している。また、遠方の家族には、特変があった時等には、その都度連絡を行っている。	ほとんどの利用者は、町立病院を掛かりつけ医としており、家族付き添いで受診している。代行をした場合は、必要に応じて家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームに看護師はおらず、わからない時は、インターネット等で調べ、職員に回覧したり、同法人の看護職に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	1年間、入居者の入院はなかったが、受診の付き添いに行った時に、他入居者の事を相談したり、また、電話等で相談したりして関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	レベル低下の入居者の家族には、ホーム側の方針を伝え、家族の方針を聞き、相談にはのっているが、レベル低下がみられない入居者には、完全には伝わっていない。	開設して2年目ということや法人の老人福祉施設が存在があり、当ホームの独自の方針が明文化されておらず、その状況に応じた相談となっている。	ホームとしての方針を定め、明文化し、利用者、家族と話し合い、方針を共有する取組をしていくことを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実務経験が少ない職員が多い為、訓練は必要であるが、実践までには至っていない。知り合いの医師より話を聞く機会を2月に予定している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策については不十分で、地域との協力体制ができていない。	昨年、避難訓練を1回しているが、地域住民への声掛けや参加依頼、また、地元消防団が参加するまでには至っていない。	夜間想定避難訓練や地震、火災などを想定した訓練を定期的実施し、地元消防団や地域住民の参加を呼び掛けるなど、協力体制の構築を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	意識して対応しているが、急な事が起こった時や職員が手薄の時には、つつい声が大きくなってしまふ。また、難聴の方等への声掛けも、声が大きくなってしまっている。	ケアされる立場に自身を置き換え、ケアに取り組んでいる。大きな声でも強い口調にはならないよう、職員間で意識している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくりと声掛けを行いながら、決定出来るのを待っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションや行事等は、本人の自己決定に任せているが、失禁等で汚れた場合は、無理強いて入浴する事はある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時には、外出用の洋服をきてもらったり、整容は毎日チェックを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には、本人の好きな物を職員が作っている。また、準備も出来る事は一緒にしてもらい、後片付けはみんなで一緒に行っている。月に1回位は手作りで、みんなで調理を行っている。	訪問時、職員と利用者による昼食のうどんづくりが行われており、準備から下せん、テーブルふき、食器洗いなど、それぞれが役割をもって楽しく行っている。晩酌を楽しむ利用者もおり、楽しい食卓となるよう配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	隣接の養護老人ホームの栄養士が献立を作成。毎食の食事量のチェックも行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアは行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿取りパットを上手にはめられない入居者には、簡単に装着できるパットを使用し、自立出来るように支援している。	尿取りパットの様式を変えることにより、自力で交換できるようになったり、夜間、時間を決めて声掛けを行い、トイレ誘導をすることにより、失敗が無くなるなど、本人に合わせた自立支援がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量を多く摂ってもらっている。毎日、体操や運動も行っているが、それでも改善できない時は、医師に相談する。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は本人に合わせて行っているが、時間帯や曜日は固定している。入居者同士の好き嫌い等がある為、合わないように工夫している。	毎日、入浴は行われているが、ゆっくり入浴できるように、隔日になっている。時間をかけてゆっくり入浴される方や温度の熱め、ぬるめを好まれる方など、本人の思いに沿い、楽しい入浴となるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝は、自分の好きな時間に起きよう、無理には起こしていない。夜も好きな時間までテレビを見て、休まっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ファイルに一覧を閉じ、目を通すように職員に伝達している。薬が変わった時等は、連絡ノートに記載し、通達している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	男性は、夕食前に晩酌をしたり、女性は洗濯物を畳んだりされる。また、年末には、しめ縄を作られる方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出時には、どこに行きたいか尋ねたり、自宅周辺まで行ったりしている。	ホームは高台に位置し、坂が多いため、散歩には少々難があり、庭への散歩や週1回のドライブを取り入れ、外出を支援している。最近では、熊本方面へ行き、雪景色に感嘆している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自分で持ちたいという入居者は、家族と相談の上、自分で保管されている。買い物に出掛けた時、日用品等を自分で選び、支払ってもらう事がある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、希望者には相手の了解を得て、取り次いでいる。手紙は、年賀状位で、自分から書かれる入居者はいない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や廊下には、季節に応じたの飾りつけがしてあり、玄関にもソファを置き、みんなが集まれる雰囲気づくりをしている。	共用空間は採光も程よく、清潔に保たれており、利用者手作りの季節感あふれる飾り物や花が飾られている。ソファや畳も置かれ、思い思いの場所で過ごせるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置き、くつろいだり、テーブルの席の配置も、気の合った人同士にするなど、工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室へは、布団の持ち込みくらいである。家族には、持ち込みをお願いするが、小さいぬいぐるみ等を持ち込まれる程度である。	自宅で使用していた枕や布団が持ち込まれている。家族の写真を飾ったり、鉢植えの花を置くなどして、一人ひとりの好みに合わせ、居心地よく過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室の目印とトイレの目印を表示している。		